

日本百街道紀行

街道とまちづくり

第27回

周山街道

歴史都市京都の 文化と歴史をはぐくむ道、 周山街道

きょうと
京都市長(京都府)

かどかわだいさく
門川大作



千年の都の道

平安建都以来、1200年を
超える歴史を誇る京都では、時

代ごとに特色ある都市計画が進
められ、多くの道が整備されて
きた。

平安京造営の際の碁盤目状の
道路構成、豊臣秀吉によ
る短冊街区の形成を基礎
として、明治には全国初
の路面電車の整備に伴う
道路拡張、昭和初期から
は本格的な近代都市計画
が進められ、現在に至っ
ている。

これらの道路は、今日
の京都の人々の暮らしを
支えるとともに、世界中
の人々を魅了する景観を
形作る大きな要素にも
なっているが、文化的側
面においても極めて大き
な役割を果たしてきた。

周山街道がつなぐ 京の今昔

多くの人が行き交い、交流す
る街道。本稿では、京都の市街
地から京北地域を経由し、丹波
山地を横断して若狭小浜に至る
「周山街道」について紹介したい。

この街道は「西の鯖街道」とも
呼ばれ、若狭湾の海産物などを
京都に輸送したルートの一つで
ある。若狭で塩漬けされ、この
街道を通って運ばれた魚介類は
大変重宝されたと言われており、
極めて重要な街道であった。

その街道沿いには、わが国初
の密教の修法地として知られる
神護寺、マンガのルーツとも言
われる国宝の「鳥獣人物戯画」を
有する高山寺をはじめとする名

刹が連なり、古くから日本の精
神文化が磨かれてきた。

また、京と北陸を結ぶこの街
道は軍事的にも重要であった。
戦国武将として名を馳せた明智
光秀がこの街道沿いに築き、中
国・周の武王の故事にならって
「周山城」と名付けた山城は、「周



周山のまちの風景



高山寺の紅葉

山街道」の名の由来になったと言われている。

さらに狩野派の絵師・狩野秀頼の手による「高雄観楓図」には、美しい紅葉を愛でる人々の様子が描かれている。今日、春には花見、夏には納涼、秋にはもみじ狩りと、四季折々の美しい自然で京の奥座敷として親しまれている高雄地域であるが、桃山時代から人々に愛されていたことが伺われる。

京北の自然と文化

さまざまな文化が花開いた周山街道沿道地域の中でも、とりわけ京の都と密接な関わりがあったのが、京北地域である。京北は、京都丹波高原国定公園に包まれた自然豊かな地域。



京北トンネル開通式典

古くからスギ、ヒノキなどの豊かな森林資源を有し、米や京野菜を中心とした近郊農業を主な産業としてきた。

特に林業の歴史は古く、禁裏の御杣御料地として平安京を創るための木材を産出した。現在も北山杉をはじめとする銘木の産地として、京都の、さらには日本の「木の文化」を支え、豊かな生活文化を育んでいる。

また、皇室との深い関わりを持つ京北の農民たちは、戊辰戦争にも参戦した。錦の御旗を護衛して凱旋した「維新勤王山国隊」の雄姿は今に語り継がれ、京都三大祭の一つ・時代祭の先頭を飾っている。本市では、このような京北の豊かな文化を未来へ伝えるべく、「京北トンネル」などのハード整備はもちろん、自ら京北に移住して地域の魅力を発信しながら移住者の相談に対応する「北部山間かがやき隊」を配置するなど、あらゆる方面から地域の活性化に取り組んでいる。

未来へ

このように京都の文化は、さまざまな人々の交流の中ではく

一口メモ

くまれてきた。そして、千年を超えてきた歴史の中で都市の機能が一度も遮断されることがなかったこのまちでは、これらの文化が脈々と受け継がれ、人々の暮らしの中に今も色濃く息づいている。

昨年、文化庁地域文化創生本部が京都に発足。現在、文化庁の京都への全面的移転に向けて

着々と準備が進められている。

本市としては、文化庁と共に京都の文化を一層広く発信し、文化の力で日本を元気にしていきたいと考えている。「文化庁が京都に移転してよかった」「日本に京都があつてよかった」とすべての皆さまに実感していただけるよう、これからも全力を尽くしてまいります。

周山街道

仁和寺前を起点として、

京都から丹波を経て若狭へと向かう道

かつて一条街道と呼ばれた、洛中から西に延びる一条通が仁和寺街道に合流。周山街道は、仁和寺前から御室川の谷をさかのぼって高雄（高尾）、楨尾、梅尾を経て清滝川に沿って北上。その名の由来

となった京北周山を通り、さらにいくつもの険しい峠を越えて若狭小浜に至る。

街道を通じて、京の都と日本海側の間でさまざまな文化や産物が行きかい、伝わっていった。



企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」